



第22回

汐風祭

- ・スウェーデン研修報告
- ・30年度 教育懇談会
- ・SSW養成課程 親子交流行事
- ・第7回 子ども支援セミナー



contents

- スウェーデン研修報告 01
- SSW養成課程 親子交流行事 02
- 第22回 汐風祭 03
- 教育懇談会 05
- ホームカミングデー開催報告 05
- 古本掘り出し市 with 赤穂高等学校図書部 06
- 地域の伝統行事へのボランティア参加 坂越の船祭り 06
- 「市民のタベ」アンテナショップ出店報告 06
- 第7回 子ども支援セミナー 07
- 夏休み宿題教室 開催報告 08
- 倉敷市真備町災害ボランティア 09
- 剣道部(男子)全日本学生剣道優勝大会出場 09
- 看護学部学生研究会講演会 10
- ひとくちメモ 10
- 編集後記 10



2018年度 スウェーデン研修報告

9月4日(火)から 12日(水)の日程で、学部生14名、引率教員2名の計16名が参加し、海外研修が実施されました。

研修内容は、スウェーデンの教育制度から始まり、社会福祉一般、教育の実際、医療現場とその仕組み、歴史、都市開発、スウェーデン人の生活や文化という流れで展開し、スウェーデンという国を知る意味でもバランスのとれたプログラム構成でした。

研修先は、ストックホルム大学日本語学科「自然と調和した教育環境を大切にした就学前学校、高齢者用集



合住宅や認知症高齢者専用住宅、障害者が芸術活動を行うディイセンセンター、看護学校及び病院の臨床研修セントラなどです。その他、旧市街を散策しながらスウェーデンの歴史を学んだり、持続可能な街づくりの先駆的な取り組みをしている地区を訪れたり、スウェーデン人の住まいを訪問し伝統的な文化(Folklore)の体験もしました。

学生については、日本以外の国に目を向けて、海外情勢や日本の未来のことを真剣に考えるきっかけになったと思います。

SSW養成課程 親子交流行事



9月1日(土)に毎年この時期の恒例行事となっているスクール(学校)ソーシャルワーカー教育課程の学生による地域親子交流行事が行われました。このイベントは赤穂市内の小学校に通う児童とその兄弟姉妹や保護者を対象として、親子の絆が深まる1日になるように企画しました。今年は「なかまと協力して秘宝を取り戻せ!~怪盗Xからの挑戦状~」と題して、空気砲やハーバリウム作りや4つのエリアでそれぞれのエリアに合わせたゲームなど楽しい企画が盛りだくさんでした。さまざまな企画を通して、参加してくれた地域の小学生同士やその保護者の皆様に楽しく交流していただきました。





今年度の大学祭は 10月6日(土)・7日(日)の2日間で開催されました。今年は「Double Piece～想像を超えるひと時～」のテーマのもと、さまざまなイベントに加え、大学のシンボルである円形広場の上空にカラーボールを吊るし、お祭り感を出すなど装飾にもこだわりました。

また、例年多くの地域の方にご出店いたしましたが、多くのお客様が訪れるフリーマーケットの会場を屋外から屋内に変更し、天候に関わらず快適にショッピングできるようになりました。

今年も大学祭実行委員会には180名を超える学生が参加し、関係各所との諸調整や協賛広告の営業活動、各イベントへの出演交渉、模擬店の看板作成、パンフレット作成などそれぞれの部門で意見を出し合いました。

大学祭実行委員会の企画以外でも、吹奏楽部による演奏会「しおさいコンサート」を今年も開催し、多くの観客を美しい音色で魅了し、茶道部によるお茶席では、子どもから大人まで多くの方にお茶を振る舞いました。また、小学校教諭を目指している学生たちによる理科実験教室では、多くの子どもたちが理科の魅力に触れる機会となりました。

今年は台風が接近する可能性があり、直前まで開催できるかどうか心配でしたが、約2日間とも無事に開催することができ、約2,000人の方々にご来場いただきました。ご来場いただいた皆様、開催にあたりご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



平成30年度大学祭「第22回 汐風祭」 Double Piece～想像を超えるひと時～

今年で22回目を迎えた大学祭「汐風祭」。毎年恒例となっている移動動物園やフリーマーケット、模擬店に加え、お笑い芸人によるお笑いライブやアーティストによるライブ、ステージでの学生企画などイベントが盛りだくさんの2日間。このほかにも学生が企画した体験ブースや理科の魅力を感じてもらう理科実験教室などもあり、今年も多くの方にご来場いただきました。

10.6sat-7Sun

汐風祭

古本掘り出し市 with 赤穂高等学校図書部 (協力:赤穂警察署・赤穂市民病院)

平成30年度汐風祭において、本学図書館と兵庫県立赤穂高等学校図書部との共催(協力:赤穂警察署・赤穂市民病院)により古本掘り出し市を実施し、赤穂高校図書部員10名、本学学生4名のボランティアが参加しました。

この日のために提供された本や雑誌、保存期間を過ぎた図書館資料など2,720点を図書館内にそろえ、2日間で815点を販売しました。収益金40,900円の全額を全国学校図書館協議会^{*1}へ、また、本の一部(1,250点)を「ホンデリング^{*2}」へ寄付しました。

皆様のご厚意に感謝いたします。



※1「大規模災害により被災した学校図書館への支援」
大規模な自然災害・人為的災害によって学校図書館の蔵書や施設・設備に著しい被害を受けた日本国内の地域又は特定の学校に対して、学校図書館機能復興への支援を図るために公益社団法人全国学校図書館協議会が行っている事業

※2「ホンデリング一本でひろがる支援の輪~」
認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワークが行っている、不要になった本を犯罪被害にあった方々への支援活動に活用する取り組み



「市民の夕べ」 アンテナショップ出店報告



8月11日(土)、赤穂海浜公園にて開催された「第48回市民の夕べ」に今年も附属地域センターが福祉アンテナショップを出店しました。今年は兵庫県政150周年県民連携事業として開催され、多くの方で賑わいました。

このアンテナショップは、施設利用者が作った授産品の販売を通じて、就労支援や障害のある人の福祉について啓発することを目的としています。みのり赤穂、わかば園、フロンティア、赤穂精華園からの協力があり、学生たちの元気な呼びかけと笑顔で、多くの方に授産品をご購入いただきました。

地域の伝統行事へのボランティア参加 坂越の船祭り



10月14日(日)に行われた、赤穂市坂越地区の伝統行事「坂越の船祭り」に本学の学生がボランティアスタッフとして多数参加しました。

坂越の船祭りは、瀬戸内三大船祭りのひとつに数えられる勇壮な伝統行事で、十数隻の船が旗やのぼりを立て、生島へと巡航していくお祭りで、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。ボランティアで参加した学生たちは、伝統衣装に身を包み、神輿を担いで本宮から海岸まで練り歩きました。学生は地域の伝統行事に参加することで、地域の方々とふれあい、地域の歴史・文化や地域のコミュニティとは何かを学ぶ、まさに「フィールドワーク」を体験できたと思います。

平成30年度 教育懇談会

毎年大学祭と同時開催しております教育懇談会を
今年も10月6日(土)に開催させていただきました。

今年も例年同様の全体会、学部別懇談会、個別面談会と今年度からの新たな取り組みとして保護者対象オープンオフィスアワーの4部構成で多くの会員の皆様にご参加いただきました。

全体会では、教内教育後援会長、加藤学長のあいさつがあり、その後の学部別懇談会では、各学部の概要説明や進路・就職状況、国家試験の取り組み状況などについて、各担当教員より説明させていただきました。

そして、毎年ご好評をいただいている在学生による学生生活や国家試験・採用試験に向けての勉強・部活・サークル活動などについての発表もありました。ご参加いた

だいたい会員の皆様からは「家庭で就職について話す際の参考になった」「大学での取り組みが具体的にわかってよかった」などのお声を多くいただきました。

また、個別面談では、担当教員から日々の大学での様子や学習状況などを直接聞く機会として多くの会員の皆様にご参加いただきました。

さらに全体会や学部別懇談会を通して説明されたことに対する質問やさらに詳細な説明などに対応させていただく機会として保護者対象オープンオフィスアワーも実施させていただきました。



ホームカミングデー開催報告

10月6日(土)・7日(日)
関西福祉大学校友会ホームカミングデーを開催しました。



今年はイベントとして関西福祉大学 PSW(精神保健福祉士)の会による講演および意見交換会が実施され、精神保健福祉に興味のある卒業生や在校生が集まり、学びを深めるとともに自己研鑽に努めることの大切さを改めて共有する機会となりました。

また、卒業生の交流場所としていた喫茶ライムでは、懐かしい友人と再会し、思い出話に話を弾ませる姿が見られるなど、楽しく充実した時間となりました。



毎年恒例となっている夏休み宿題教室も今年で10回目となりました。

8月2日(木)・3日(金)に赤穂市(本学)、8月1日(水)・6日(月)に上郡町(県民交流広場「菊森さんの家」、上郡町生涯学習センター)、8月5日(日)に備前市(備前市市民センター)の3会場で計5日間開催しました。延べ308名の小学生が参加し、会場は子どもたちの元気な声で溢れました。学生ボランティアスタッフは延べ56名、赤穂西中学校からも2年生の方11名のボランティア参加があり、小学生が各々持参した宿題と一緒に考えやる気が続くよう応援しました。

上郡会場では、今年も食育教室を開催。上郡町いづみ会の方々にご指導いただきながら、同町特産モロヘイヤ入りのチャーハン、サラダ、野菜たっぷりスープなどを作りました。また、お昼休みには地元の読み聞かせサークルによる絵本の朗読会が開かれ、様々な世代が交流する場になりました。

今後も、地域に開かれた大学として、子どもたちへの学習支援や交流事業を継続し、大学としての役割をはたしていきたいと考えています。



開催報告 夏休み宿題教室



第7回 子ども支援セミナー

8月17日(金)に第7回子ども支援セミナーが開催されました。この子ども支援セミナーは本学と兵庫県立赤穂特別支援学校、赤穂市教育委員会との共催事業として、基調講演と3つの分科会の2部構成で毎年この時期に開催されています。

今年の基調講演は、臨床心理士でスクールカウンセラーの中村 経子(なかむら のりこ)氏を講師にお招きし、「笑って元気! 心が通うコミュニケーション術」をテーマにご講演いただきました。中村先生がスクールカウンセラーとして出会った子どもたちとのかかわりを紹介いただきながら、心のケアはカウンセラーの専売特許ではなく、身近な人からのちょっとした一言で元気を取り戻せ、一緒に笑うだけで元気になれるることもよくあることで、人と人が心を通わせることの素晴らしさをお伝えいただきました。

昼食時には、社会福祉学部の八木修司教授、高田豊司講師のゼミ生による活動報告や兵庫県立赤穂特別支援学校の



教育実践報告についての展示が2号館1Fのホールにて行われました。ご来場いただいた皆様から「日ごろの学生達の活動の様子がよく伝わった」「さまざまな実践例を知ることができ参考になった」などの感想が聞かれました。

午後からは、第1から第3までの分科会に分かれての研修が行われました。第1分科会は「地域における発達の気になる子どもたちへの支援の実際—障害児通所支援施設での取り組みを中心に—」(第3回卒業生のフォローアップ研修[児童分野])、第2分科会は「学級運営で大切にしたいこととは何か」、第3分科会は「特性のある子どものそれぞれの発達段階に



おいて得意を伸ばし困難を支える支援を考える」のそれぞれのテーマについて、児童福祉施設や学校、幼稚園・保育所にお勤めの方から保護者の方、行政の関係者まで幅広くご参加いただき、どの会場も非常に活発な意見交換や事例発表、質疑応答などが行われていました。残暑厳しい中、ご参加いただきました皆様ありがとうございました。

来年度も今年度同様、多くの方にご参加いただける有意義なセミナーにしたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

